

教育総合センター だより

NO. 174

令和 6. 12. 1



『人を大切に』

尼崎市立立花中学校
校長 前田 裕 司

【はじめに】

令和5年4月3日、3年ぶりに尼崎市に復帰して立花中学校長を拝命した。わが母校である。ある先輩の先生からは、「母校の校長で最期を迎えられるのは、私の知ってる中で3人目だよ。しっかり頑張るな。」と励ましの言葉をいただいた。身の引き締まる思いであった。

【学校は生きもの】

国際的な紛争が日々起こり、新型コロナウイルス感染症の流行、地震や記録的な大雨による自然災害など、社会の不安定さの中にあって、グローバル化、ICTやAIなどの技術革新が進み、変化の激しい時代の中で学校を取り巻く課題も急速に変化している。中学校の問題行動についても平成15年度と令和5年度を比べてみると、年間の問題行動件数の総数はほとんど変わらない。しかしながら、その内容は、暴力行為、器物損壊、恐喝、窃盗などの刑法犯行為は1/6に減り、深夜徘徊、家出、無断外泊、喫煙などの虞犯行為は1/10に激減している反面、「SNS上のトラブル」やコミュニケーション不足からの「人間関係トラブル」などが大幅に増加している。いじめの認知件数は35倍になり、不登校生徒数の増加も含めて、人と人の関係が上手く構築できないことが様々な要因となっていると感じている。心の中が見えにくくなり、指導の難しさも年々感じる場所である。価値観の多様化とともに保護者が学校へ期待することも変化しており、SCやSSWなどの専門職も配

置されているが、今こそ、教員が生徒を観察し、変化に気づき、丁寧に関わることが大切で、生徒や保護者の思いを受け止めながら進むべき「道しるべ」を示していくことが学校、教員の役割であると感じている。

【不易流行】

10年後の社会の変化が予想できないからこそ、自ら考え、判断し、主体的に行動できるための「考える心」が必要で、思うように物事が進まないときにじっくりと構え、腰を据えて取り組んでいく「我慢する心」が大切である。AIや自動化が進んだ世の中になっても、人と人との繋がりを大切にし、協力し合い、周りの人への思いやりや「感謝の心」をもった豊かな人間性を育てていきたい。この3つの心を大切に教育方針は、およそ30年前にわが子がお世話になった保育園の教育方針であった。現在は、「我慢する心」をどのように育てていくのが課題であり、工夫が必要であると考えている。

【おわりに】

これから先も時代は変化し、学校に求められる役割は変化していくと思われる。自分の持っている経験を伝え、継承し、変化することを恐れず、柔軟な発想と強い信念をもって指導できる教員こそがこれからの時代に求められている教員である。

最後に、人と人の出会いこそが自分自身を成長させてくれたと実感している今、これまでに会ったたくさんの生徒、保護者、先生方から学ばせていただいたこと、育てていただいたことに改めて感謝いたします。

☆☆尼崎市における「学びの多様化学校」について☆☆

◆◇◆はじめに◆◇◆

尼崎市では、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策・支援の一つとして、兵庫県下の公立学校では初めてとなる学校型の学びの多様化学校を令和8年4月に開校することを目指し、取組を進めています。

◆学びの多様化学校の概要◆

学びの多様化学校とは、文部科学大臣の指定を受け、教育課程の基準によらず、不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施できる学校のことです。平成16年に初の学びの多様化学校（当時の名称：不登校特例校）が開校しています。教育機会確保法や「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」が後押しとなり、令和6年4月現在、全国で35校が設置されています。

◆特別の教育課程の編成◆

学びの多様化学校では、学習指導要領等に定められた教育内容や総授業時数を削減することができますが、自由に削減して教育活動を行うことができます。文部科学省の資料で、「原則として、教育内容や総授業時数の削減は好ましくない」と明記されています。特別の教育課程の編成に当たっては、学びの多様化学校ごとに様々な工夫がなされているところです。

◆尼崎市の不登校対策・支援◆

尼崎市ではこれまでも、公設民営の教育支援室「ほっとすてっぷ」や学習支援室「サテライト教室」、「ハートフルフレンド」の運営、また、出席扱いとすることができる民間施設のガイドライン作成など学校外の学びに対する出席扱いの対応等の不登校対策・支援を積極的に行ってきました。これらは、近隣の自

治体に先駆けた先進的な取組です。令和6年度からは「校内サポートルーム・エリア」の整備も進めています。学びの多様化学校の設置は、そうしたグラデーションのある不登校対策・支援の一つとなるものです。

◆尼崎市の学びの多様化学校◆

尼崎市の学びの多様化学校の基本理念は「こどもセンターの視点に立ち、地域や社会、そして未来との繋がりのなか、一人ひとりが最大限のウェルビーイングの向上を実現できる場所」とし、全校生徒40人程度の中学校として設置予定です。総授業時数や1コマの授業時間を短縮し、ゆとりと特色ある学びの実現を図る方向で検討を進めています。学びの多様化学校の設置は、公教育を多様性のあるものにしていくための取組であり、多様な学びを推進するためのフラッグシップ校を目指すとともに、こども一人ひとりへの教育的ニーズに対応できるよう、研究・実践を行っていく予定です。

◆◇◆おわりに◆◇◆

尼崎市は昔から多様性と先進性に富む町でした。枠にとらわれず多様な児童生徒を包み込もうとする学校風土がありました。定時制の琴ノ浦高等学校と夜間中学の成良中学校琴城分校での実践は、既に尼崎市の多様な学びを牽引する貴重な財産となっています。学びの多様化学校の設置は、尼崎市の学校教育に受け継がれてきた多様性と先進性の結晶であり、各学校がこれまで蓄積してきた教育実践の延長線上にあるものです。学びの多様化学校の設置は、大きなチャレンジです。未来の児童生徒や教員の姿を思い浮かべながら、設置準備を進めていきたいと思えます。

（学びの多様化学校設置準備担当 係長 池田 尚史）

☆☆☆人権教育への第一歩☆☆☆

「人権教育にかかわる概念は抽象的で分かりにくい」といった声がよく聞かれます。みなさんの考える「人権教育」とは具体的にはどのようなものが思い浮かびますか。

文部科学省は「学校における人権教育の目標」として、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」を理念として明記しています。

児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、様々な場面や状況下で、その理念が具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにすることが目標とされています。

大きな理念や目標を知り、頭では理解しても、実際のところ何をすれば「人権教育」と言えるのか…みなさんもそんな悩みを抱えたことがあるのではないのでしょうか。考え方や感じ方はそれぞれであるとは思いますが、いくつか取組の一部を紹介いたしますので、明日からの人権教育の参考にさせていただければと思います。

【児童生徒への講演会の実施】

小・中学校では、様々な人権課題について、外部から講師を招聘し、児童生徒の発達段階に応じた学習に取り組んでいます。昨年度あった講演会の内容としては、「LGBTQ+について」「いのちの大切さについて」「車椅子ユーザーの生活環境について」「視覚障害に係るアイマスク体験」「外国の文化について」「予期せぬ妊娠について」などがありました。

普段の生活の中では、特に意識することはなかったとしても、講演会において、当事者から話を聞くことで、意外に身近なところに人権課

題があるということ、児童生徒が気づくきっかけにもなっています。

【人権に係る作文・標語・ポスターへの取組】

日々感じていることを作文等にのせ表現することで、人権課題と向き合う機会を設定しています。毎年小・中学校において、児童生徒が様々な人権課題を、他人事ではなく自分事として捉え、一人ひとりが意識を高めています。

【教職員向け研修】

教育総合センターにおいて、基本研修・専門研修として「多文化共生」「LGBTQ+」「子どもの権利条約」等、また、初任者研修でも「北朝鮮当局による人権侵害問題」など、様々な人権課題に関する研修を実施しています。曖昧にしか知らなかったことを、深めることのできる機会でもあります。

これらの取組はあくまでも人権教育のスタートラインにすぎません。何よりも大切なことは、これを読んでいるみなさんが、自分の周りにいる人々を理解し、受容し、愛することだと考えます。

人はそれぞれ顔が違うように、性格も違えば考え方も違います。それが当たり前だと分かっているにもかかわらず、人を何気なく差別し、根拠のない偏見で無意識のうちに身近な人を傷つけてしまうこともあるのではないのでしょうか。

人権感覚を磨き、意識を高めるためには、課題について正しい知識を持ち、違いを認め合うことが必須です。私も、人権教育への第一歩として身近な人を大切にすることから始めようと思います。

(学校教育課 人権担当係長 川脇 いずみ)

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ね下さい。

(3F 教育情報コーナー)

【新着図書】

- ・『特別支援教育に学ぶ発達が気になる子の教え方 The BEST』
渡辺道治 著／東洋館出版社
- ・『幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？』
文部科学省 著／東洋館出版社
- ・『VUCAの時代を生き抜く力を育む未来の「学び方」』
岳野公人 編著／明治図書
- ・『学校をおもしろくする思考法 卓越した企業の失敗と成功に学ぶ』
妹尾昌俊 著／学事出版
- ・『子どものためのセルフ・コンパッション』
ロレイン・ホップス 他著／創元社
- ・『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか？認知科学が教えるコミュニケーションの本質と解決策』
今井むつみ 著／日経BP
- ・『対人支援に活かすネガティブ・ケイパビリティ あえて答えを出さず、そこに踏みとどまる力—保留状態維持力』
田中稔哉 著／日本能率協会マネジメントセンター
- ・『教育で語られがちなことその奥にあるもの』
渡辺道治・古館良純 著／東洋館出版社

(担当 松浦)

☆「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

【本の紹介】

■『学校全体で取り組むポジティブ行動支援スタートガイド』2023年8月初版発行 ジアース教育新社
著者・若林 上総（宮崎大学教育学部准教授） ・半田 健（宮崎大学教育学部准教授）

- ・田中 善大（大阪樟蔭女子大学児童教育学部准教授）
- ・庭山 和貴（大阪教育大学総合教育系准教授） ・大対 香奈子（近畿大学総合社会学部准教授）

本市でも取り入れる学校が増えている、「ポジティブ行動支援」について、学校全体での取り組み方を細かく丁寧に説明している本である。複雑化・多様化した課題に対応する必要が高まる一方で、教職員の働き方を変えていくことも求められており、ますます「チームとしての学校」の実現が必要であるが、本書では、学校がチームとしてポジティブ行動支援を実施し、直面する課題を解決していく方法を、具体的に解説している。（本市でもお世話になっている大阪教育大学の庭山准教授も著者の一人である。）

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

(担当 西川)